



家の家業は農業で米、野菜、養蚕などを幅広くやっていた。近所の農家はどこの家も親類みたいなもので、子供たちも例外ではなくみんな友だちで、いろんなことをして遊んだ。隠れんぼや缶けり、魚と煙でとったイモなどの野

の子供のころからよく遊びに行っていた。母の実家の実家は農業で米、野菜、養蚕などを幅広くやっていた。近所の農家はどこにても親類みたいなもので、子供たちも例外ではなくみんな友だちで、いろんなことをして遊んだ。隠れんぼや缶けり、魚と煙でとったイモなどの野

た以外は、霞ヶ浦の風景に、仕事の余暇に始めた趣味のカメラ年6月に写真集「想い出の水郷」写真展も各地で開催するとともにめられた100点近くのモノクロ写下ろして生きてきた水郷の人々の子供時代の想い出や人々の日

の子供のころからよく遊びに行っていた。母の実遊び道具がなかった時代、自分たちで工夫しながら夢中で遊んだ。

隠れんぼの隠れ場は、多くが縁の下やわら小屋多々が縁の下やわら小屋遊び道具がなかった時代、自分たちで工夫しながら夢中で遊んだ。

隠れんぼの格好の場所で隠れんぼの隠れ場は、あつた。横穴には、長さが一㍍くらいの直刀などが多くが縁の下やわら小屋遊び道具がなかった時代、自分たちで工夫しながら夢中で遊んだ。

隠れんぼの格好の場所で隠れんぼの隠れ場は、あつた。横穴には、長さが一㍍くらいの直刀など多くが縁の下やわら小屋遊び道具がなかった時代、自分たちで工夫しながら夢中で遊んだ。

隠れんぼの格好の場所で隠れんぼの隠れ場は、あつた。横穴には、長さが一㍍くらいの直刀など多くが縁の下やわら小屋遊び道具がなかった時代、自分たちで工夫しながら夢中で遊んだ。

隠れんぼの格好の場所で隠れんぼの隠れ場は、あつた。横穴には、長さが一㍍くらいの直刀など多くが縁の下やわら小屋遊び道具がなかった時代、自分たちで工夫しながら夢中で遊んだ。

隠れんぼの格好の場所で隠れんぼの隠れ場は、あつた。横穴には、長さが一㍍くらいの直刀など多くが縁の下やわら小屋遊び道具がなかった時代、自分たちで工夫しながら夢中で遊んだ。

## 水郷の想い出

語り・写真 鴻野伸夫

(2)

祖父に連れられて初めて川に遊びに行った。霞ヶ浦に注ぐ小野川河口の四十石河岸に魚釣りに行つたように記憶している。家から徒歩で五分ぐらい。古渡小学校に通っていたが、生徒は一クラス五十人ぐらい。小学校の四、五年生のころになると友だちと本格的な水遊びをするようになつた。その中でも樂しかったのは、五、六人でいかだを造つて小野川に浮かべ遊んだことだった。いかだの大きさは、長さが四

から拾い集めてつなぎ、組み合わせてわら縄でしばり水に浮かべるという単純なものだった。農家の子供などは縄の扱いがうまく、造るのが上手だった。小野川は深いところで四びくらいあった。誤つて落ちたら大変だが、い

からなると、さまざまな魚釣りをして楽しめた。中学生になると、さまで、いたずらに霞ヶ浦を汚しているが、私の子供のころは草々とした魚と子供などは魚の種類は豊富だった。釣り餌は、ごみ捨て場や排水路の溝からミズを取っていた。台所から流れ込んだ生活雑排水が溝に染み込み、それ

から始めてつなぎ、組み合わせてわら縄でしばり水に浮かべるという単純なものだった。農家の子供などは縄の扱いがうまく、造るのが上手だった。小野川は深いところで四びくらいあった。誤つて落ちたら大変だが、い

かだにはへりがないから、川に落ちても、水面と平らだから、すぐには上がる構造で、安全安心だった。それにいかだは、波がきて水をかぶつても沈没しない。夏休みは当然だが、学校から帰ったら、友だちと毎日のように川に行って遊んでいた。

ふぐらいで幅が二㍍ほどだった。オダのくいや廢船の残材をそこらあたり

を食べて栄養分としているミニズはどこを掘つてもらいた。

□

鴻野伸夫さんの「水郷の想い出」写真展が十五日から三十一日まで、常陽銀行江戸崎支店で開催

92・2012)まで。

かだにはへりがないから、川に落ちても、水面と平らだから、すぐには上がる構造で、安全安心だった。それにいかだは、波がきて水をかぶつても沈没しない。夏休みは当然だが、学校から帰ったら、友だちと毎日のように川に行って遊んでいた。

当時の霞ヶ浦がきれいだったのは、沿岸に住む人も少なかつたが、生活雑排水をそのまま流さず、溜と溝で浄化された水を霞ヶ浦に注いでいたからだと思う。

今の釣りは、いやといふほどまき餌をばらまき、だまし討ち的な釣りもいた。

□

鴻野伸夫さんの「水郷の想い出」写真展が十五日から三十一日まで、常陽銀行江戸崎支店で開催

92・2012)まで。

ので、さおも篠竹を切つてきて作つた。

□

鴻野伸夫さんの「水郷の想い出」写真展が十五日から三十一日まで、常陽銀行江戸崎支店で開催

92・2012)まで。

「米づくりは土づくりから」。昔の農家は、土を耕すこと、土壌の改良に最大限の努力を払つた。1965年以後、出稼ぎが可能になり、男は田んぼに力を入れるより現金収入に力を入れた。素朴豪気、人情は少くなり、金力のあるものが立派とされるようになり情けない社会になつた。(写真説明は、土浦市在住で60年まで稻敷市浮島で農業を営んでいた半田彌太郎氏によるものです)



## 水郷の想い出 ③

語り・写真 鴻野伸夫

学校から帰ったら、二  
筋ぐらいの篠の竹に糸と  
針をつけて小野川の川べ  
りに仕掛けておく。この  
魚とりはメチャクチャに  
面白かった。川の中心部  
は深くて船でないと入れ  
ないので、もっぱら川岸  
でやる方法だ。糸の長さ  
は五十㍍ほどで餌は太い  
ボウタフミミズ。川の中  
に流していくだけという  
簡単なものだが十本ぐら  
い仕掛けておく。

仕掛けはこうだ。一・  
五筋ぐらいの篠の棒に釣  
り糸に「ペコ針」を付  
け、生きたトノサマガエ  
ルを尻から針に刺したさ  
おを浮かしてペコ針を干  
ぼぐらい間隔ぐらいに一  
晩仕掛けておくと、カエル  
が泳いでいるといふに  
知恵の輪のような形をし

ルの舌を出したペコちゃん  
と似ていたからかも知  
れない。

川岸のマコモやヨシを  
一筋ぐらいの広さに刈  
り、生きたトノサマガエ  
ルを尻から針に刺したさ  
おを浮かしてペコ針を干  
ぼぐらい間隔ぐらいに一  
晩仕掛けおくと、カエル  
が泳いでいるといふに  
知恵の輪のような形をし

モやヨシがガサガサと揺  
れ、バシンバシンと  
水音がするとしめたもの。  
ライギョだけでなく  
ニホンナマズもよく掛か  
つていた。

友だちも仕掛けておく  
のだが、暗黙の了解のよ  
うなものがあり、おの  
漁場はここからここまで  
いうように繩張りがあつ

た。ひとよなことはしなか  
った。そういう約束ごと  
は、子供同士の間できち  
んと守られていたような  
気がする。

また、ウナギをとるつ  
くしの仕掛けも面白かつ  
てみて汁にして食べた記  
憶があるぐらいで、あま  
り食べた記憶はない。食  
べることより魚をとるス  
リルを楽しんでいた。

鴻野伸夫さんの「水郷  
の想い出」写真展が十五  
日から三十一日まで、常

た針だった。どうして  
「ペコ針」と呼ぶように  
なったのか分らないが、  
針の形が不二家のアイド

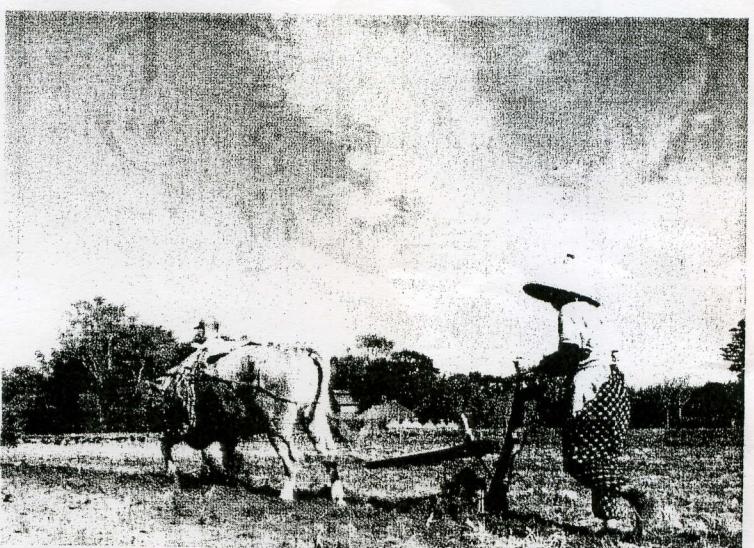
リ、それが楽しみだった。  
もちろんとれない日も  
あった。自分の仕掛けに  
はかからず朝寝坊して遅  
くなって「惜しいことも  
何度もあったが、盗んで

夜行性のライギョがかか  
る。トノサマガエルをお  
とりにするのだ。これは  
面白いように掛かつた。

た。とれる魚は、一日に  
一、二匹だけだが、釣り  
上げる時はグングンと何  
ともいえない手応えがあ  
るのもあつた。それを

「へり」と呼んでいた。  
さばいてくれたが食べた  
という記憶は少ない。お  
そらく畠の肥やしにした  
り、ネコなどにやるか捨  
てていたのではないか。

た。水底に住むウナギを  
とる。毎朝四、五四ほど  
れたが、すでに死んでい  
るのもあつた。それを  
陽銀行江戸崎支店で開催  
されます。問い合わせは  
92・2012まで。



た。小さなバケツも網も  
捨てて母のところへ走つ  
て置つ。台座は二つへ  
られて、土台が大きくな  
った。工夫をして、今では考  
えられた。當時の田舎の  
生活は、想像以上に大変な  
ものだった。

た。小さなバケツも網も  
捨てて母のところへ走つ  
て置つ。台座は二つへ  
られて、土台が大きくな  
った。工夫をして、今では考  
えられた。當時の田舎の  
生活は、想像以上に大変な  
ものだった。

鴻野伸夫さんの「水郷  
の想い出」写真展が十五  
日から三十一日まで、常

## 水郷の想い出

語り・写真 鴻野伸夫

小学校五、六年生のころになると遊びに恵みもつきた。今でも作ってみると言われば作れるほど鮮明に覚えているのは、手製の銃を作り、火薬を利用した弾も作り、鳥を撃って遊んだことだ。

銃の材料は鉄パイプ一本と竹だった。弾は薬きょうを拾ってきて火薬を詰めて作った。薬きょうは、近所を歩き回れば簡単に拾い集めることができた。

神社掃除で枯れ葉を集めて燃していたら、不発弾が交じっていて、暴発して太ももにけがをした人もいたぐらいだ。

小学校五、六年生のころになると遊びに知恵もつきました。今でも作つてみると言われば作れはほど鮮明に覚えているのは、手製の銃を作り、

年八月六日、当時としては大きな建物として目立った古渡村役場が戦闘機の機銃掃射を受け一人が死亡し、三人が負傷した。

その日は、じりじりと

田草とりの母に連れられ  
て田んぼに行き、近くの  
小川で魚とりをしてい  
た。

鉄砲作りは、空の薬き  
ように火薬と弾を入れて  
紙を詰めるだけの簡単な  
もので、それをパイプに  
取り付け、真管には紙電  
管を使い、くぎのよつた  
ものが電管に当たるよう  
に工夫して発射した。  
お尻のところにポンと  
当たるようにガイドをつ

いか精度の高いのを作つていた。

試射をすると、トタン板を抜ぐぐらいの威力があり、殺傷力は十分にあつた。子供の知恵というのは、どうやって付いていくものか。銃作りなどは、誰に教わったという記憶はない。

ただ、友だちと遊んでいるうちに、それなりの

かす。欲しくてたまらなかつた。

松の木の高い枝にキラキラ光っているのを見つけ、急な斜面をはだしで駆け上がった時に篠の切り株を踏み抜いてしまつた。鎌で斜めに切り取つた篠の株は鋭かつたので出血が止まらず、傷口を押さえて泣いていると近所の女の人が助けに来て

A black and white photograph capturing a scene from a Japanese water town. In the center, a long wooden boat is filled with several individuals wearing traditional conical hats (fedoras). Some are standing, while others are seated at the stern. The boat is positioned on a calm river. In the background, a cluster of traditional Japanese houses with dark tiled roofs is visible, partially obscured by lush green trees. The overall atmosphere is one of a quiet, everyday moment in a rural or semi-rural setting.

た。小さなバケツも網も捨てて母のところへ走った。母も私の名を呼びながら迎えに走ってきた。二人で山陰のコンクリート橋の下に逃げ込み、小さくはつて嘘うそをついた。

け、ぐぎにゴムを引っかけて撃つ。台座はそのへんの材木を利用した。

火薬は運動会で使うピストル弾の紙をはがして集めた。友だちの一人は、はがして粉状の火薬をもつと細かくして粉のようにしてようと、つぶしながらかき回した。そこで発火してけがをした。鍛冶屋のせがれだと思うが、家に道具があったせ

工夫をして、今では考ふ  
られない危険な道具を使  
りだしては、平気な顔を  
して遊んでいた。

くれた。  
その松の木といえば太  
さが一ぱあまりで高さが  
十尺もあり小学一年生の  
子供には登れるはずもな  
かった。

鴻野伸夫さんの「水郷の想い出」写真展が十五日から三十一日まで、常陽銀行江戸崎支店で開催されます。問い合わせは同支店（電話029・892・2012）まで。



水郷地帯特有の菅笠、日本手拭い、紺綿（がすり）のはんてんと田股引き、黒の手差し、紺（がすり）のが前掛けがユニフォームであつた。男は菅笠が鍔広の麦わら帽子にかわるだけ。女性の前掛けの白いひもは既婚者、娘は赤いひもで色気を示した。

(3) 水郷の  
想い出  
福野伸夫

年報  
(1)

【昭和24年6月17日第三種郵便物認可】

市民協会 募集

## 水郷の想い出 (6)

語り・写真 鶴野伸夫

夜になるとホタルとりだけでもなく「ドジョウブチ」という魚取りよりもやつた。時期は、田植えが終った五、六月ころで、苗の根が座り、田ん

が大量に発生し、松やにのにおいがする。そのすすが顔に付着して「ドジョウブチ」が終わるころには顔が真っ黒になつ

た。カスミ網も仕掛けたが、これは種類を問わずいろいろな鳥がかかる。捕獲の最大の目的は小遣い稼ぎができるホオジロだ。そのため、ホオジロとアオチがよくかかった。スズメは利口な

ち具合とか、子供なりの知恵を絞り工夫した。「バッヂメ」には、ホオジロとアオチがよくかかった。スズメは利口な

が、これはなかなか忙しい作業だった。片手にカンテラとバケツを持ち、利き手にはドジョウ針を握っている。三つの用具と一緒に持っていることになる。

「おつかがせ」という魚取りもやつた。これは底の抜けたザルかごを使用する。昔は堤防がなかつたから大雨になると、霞ヶ浦の水が田んぼに流れ、一緒に魚ものぼつてきた。そこで、田んぼの水が引くのを合図のよ



ジョウ針をポンと打つ。のやや斜めから打つよぐとれた。

「おつかがせ」という魚取りもやつた。これは底の抜けたザルかごを使

店 (電話 029・892  
・ 2012) まで。

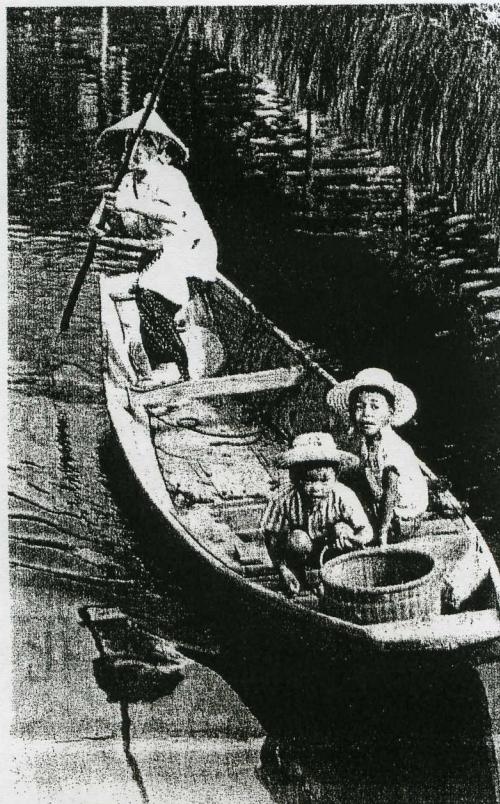
私が得意としていたのは「バッヂメ」という方法でスズメをじる」とだつた。仕掛けはこうだ。アミに弓を張り、鳥が餌を突付くアミがバタンと倒れてかかるという単純なもので、餌は稻の穂などを使つた。面白いようにかかつたが、研究もした。弓の張り方、餌の落ち具合とか、子供なりの知恵を絞り工夫した。「バッヂメ」には、ホオジロとアオチがよくかかった。スズメは利口な

が、阿オチは鳴き声がよくないのか人気はなかつた。カスミ網も仕掛けたが、これは種類を問わずいろいろな鳥がかかる。捕獲の最大の目的は小遣い稼ぎができるホオジロだつた。そのため、ホオジロも仕掛けたが、阿オチは鳴き声がよくないのか人気はなかつた。

山菜とりは、ワラビとかキノコが多くた。家の周りにある山の状態は子供のころから歩き回ってよく知っていたから、どこにいつづろに行けば、何がとれるかというのを体で覚えていた。キノコはたくさん種類がある。とつてきたキノコは家に持ち帰り、味噌汁な

りは駄目になった。次々とゴルフ場がオープンする、自然と山に入る人もなくなった。今では、山掃除をする習慣がなくなり荒れ放題になつた。ほかにも、トンボやセミなどの昆虫採集をして

標本を作つたり、カエルを解剖したりと四季折々の自然を相手に夢中で遊んだ。ホタルをとつてきて黄色い光を放ち明滅し



「竿(さお)は三年(さんねん)、櫓(ろ)は三月(みつき)」と  
は言われ、竿で舟を漕ぐのは、それだけ難しかつた。このおばあちゃんも昔、嫁入りした時はこのような舟で送られてきたのだろうか

かつた。この方法は空氣銃で撃つように鳥に傷を付けないでとれたから買つてくれる人もいた。近

所にホオジロを飼つていゐるおじいさんがいて、持つていくと喜んで、ちょ

所が、自然と分かるようになつた。

山菜とりは、ワラビとかキノコが多くた。家の周りにある山の状態は子供のころから歩き回つてよく知っていたから、どこにいつづろに行けば、何がとれるかというのを体で覚えていた。キノコはたくさん種類がある。とつてきたキノコは家に持ち帰り、味噌汁な

りは駄目になった。次々とゴルフ場がオープンする、自然と山に入る人もなくなった。今では、山掃除をする習慣がなくなり荒れ放題になつた。ほかにも、トンボやセミなどの昆虫採集をして

標本を作つたり、カエルを解剖したりと四季折々の自然を相手に夢中で遊んだ。ホタルをとつてきて黄色い光を放ち明滅し

## 野鳥と山菜とり

水郷の想い出 (5)

語り・写真 鶴野伸夫

ジロの寄りそつな所にカスミ網を張るわけだから、当然のようにカスミ網にかかるのはホオジロが多かつた。慣れてくると、ホオジロの渡りの場

どにして食べた。毒キノコなどは、大人が見分けてくれたと思う。しかし、ゴルフブームで山の開発が進み、ゴルフ場ができるから山菜とり

の想い出写真展が十五度の商店街は、土浦市内と同じように浸水して被害を出していた。祖父の実家がその商店街で医院を開業し、川の淵に二階建ての家があった。台風建てるのを覚えていた。

あつた。小野川沿いの古渡の商店街は、土浦市内と同じように浸水して被害を出していた。祖父の実家がその商店街で医院を開業し、川の淵に二階建ての家があった。台風建てるのを覚えていた。

その後、親は「片付けを手伝いに行ってくるよ」と言って出掛けたのを覚えている。

私は子供だったので連

③ 水銀の  
黒い光。

六郎の退火出

音二鳥爭白三

夜になるとホタルとりだけでもなく「デジョウアブチ」という魚取りとりもやつた。時期は、田植えが終った五、六月ころで、苗の根が座り、田んぼに少しの水を張った状態が最良とされた。

ドジョウブチの道昌は、くしのように二十本ぐらい針を植えてあるドジョウ針とカンテラにバケツを持つて夕方になると出掛けた。

た。お互いの顔を見合せて大笑いをするのが常だった。カーバイドが普及すると自然と松根油は使わなくなつた。ドジョウの習性は夜になると動かないで浅い田んぼの中でじっとして眠つている。それを見つけてはド

も入ればバケツぐらいは持つてもらつたが、ほどんど一人でやつた。大人もやつていたが、子供でも一晩でバケツ半分ぐらゐはとれた。ドジョウアチのコツは、ドジョウ針を真上から打つのではないか、眠つているドジョウは高台にあるため水に浸かることはなかつたが、後ろの山が崩れることのが

れていかれなかつたが、  
二階まで浸水していようと  
聞いて、二階から魚を釣  
つたら面白いだらうなと  
思つた。

• 100 •

田んぼでドジョウウズチ

が大量に発生し、松やにのにおいがする。そのすが顔に付着して「ドジヨウブチ」が終わるころには顔が真っ黒になつ

その三種の神器を持つて、暗くて細いあぜ道を歩くのだからバランスを取りの難しかった。弟で

の後、親は「片付けを手伝いに行ってくるよ」と言つて出掛けたのを覚えている。

ジミウ針をアンド打つ。  
これはなかなか忙しい  
作業だった。片手にカン  
テラとバケツを持ち、利  
き手にはドジョウ針を握  
っている。三つの用具を

やや斜めから打つとよ  
とれた。  
□

うつた。小野川沿いの古  
いの商店街は、土浦市内  
同じように浸水して被  
害を出していた。祖父の  
家がその商店街で医院  
開業し、川の淵に二階

崎支店で開催されていま  
す。問い合わせは、同支  
店（電話029・8992  
・2012）がよい。



## 水郷の想い出⑦

語り・写真 鴻野伸夫

もなく、泳ぎは自然と覚えていた。

注意されねばされるほど  
好奇心を持つものだ。二  
艘までは大丈夫だが三艘  
となると勇気がいった。

い。松林の中で、さんのが上半身裸、つて休んでいた。草を食んでいた。かな光景だった。

は、兵隊で寝転がり、馬が夕方近くになると、馬演習を終えた兵隊さんが馬に乗り、隊列を組んで砂利道を踏みながら走る時のひづめの音が、へり、へり、のど

でも耳に残っている。  
□ 鴻野伸夫さんの「水  
の想い出」写真展が三

家から、湖水浴場で一  
ら、堂崎の鼻の湖水浴場

# 人気のあつた湖水谷場

す。問い合わせは同支店  
(電話029・892・

あつた堂崎の鼻だった。家から子供の足でも七八分の距離にあつた。湖水浴場は堤防もなく、二百五六十㍍の砂浜が広がり、背後に松林が広がっていた。堂崎の鼻は近隣の水泳場として人気があり、遠くの阿波や神宮寺の集落の子供たちも歩いてきていた。プールのない時代だか

麻生の湖水浴場によく似ていた。

堂崎の鼻では、騎馬隊の水馬演習が行われていた。三、四歳のころ、祖父の手を握りしめながら見ていたことをよく思い出す。はっきりしないが、千葉に駐在していた陸軍が、水の中で馬を扱う訓練で、水しぶきをあげ馬が跳ねていたような記憶がある。千葉には御陵牧場もあり馬の産地で連隊もあったから演習に来ていたのかも知れない。

水郷の想い出

語り・写真 鴻野伸夫

鳴  
野

7

もなく、泳ぎは自然と覚えていた。

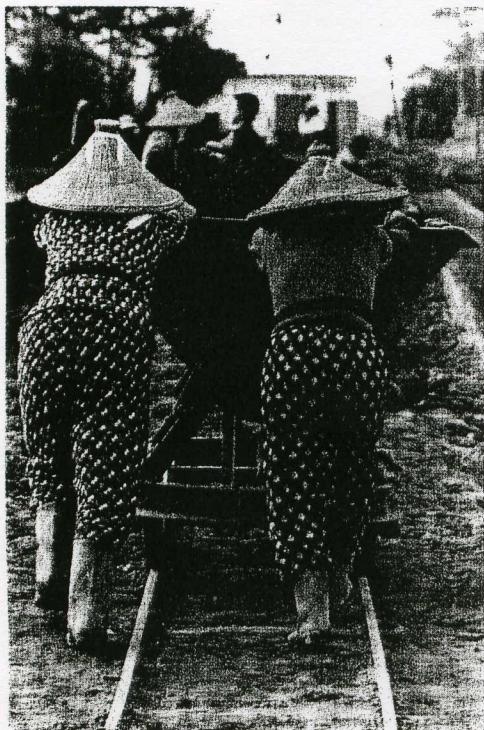
□  
注意されねばならぬが、好奇心を持つものだ。二艘までは大丈夫だが三艘になると勇気がいった。

い。松林の中で  
さんが上半身裸  
つて休んでいた  
草を食んでいた  
かな光景だった

は、兵隊で寝転がり、馬がのど。夕方近くになると、水馬演習を終えた兵隊さんが馬に乗り、隊列を組んで砂利道を踏みながら帰る時のひづめの音が、今

□ □ でも耳に残っている。

## 人気のあつた湖水浴場



地元の土地改良区（ほ場整備）事業が盛んになると、農家の主婦もわら編みなどの分の悪い副業は止めて、競って作業現場に出て働くようになった

ケツを持つて夕方になる  
と出掛けた。  
仲の良い友だちと五、  
六人でつるんで行くこと  
が多かった。明かりの力  
ンテラはマツの根っこを  
燃料とした。これはすす  
使わなくなつた。ドジョウ  
の習性は夜になると動  
かないで浅い田んぼの中  
でじっとして眠つてい  
る。それを見つけてはド  
ラッグを撒く。カーバイドが普  
及すると自然と松根油は

んど一人でやつた。大人もやつていたが、子供でも一晩でバケツ半分ぐらいいはされた。ドジョウアチのコツは、ドジョウ針を真上から打つのではないか、眠っているドジョウ

台風といえば、私の家は高台にあるため水に浸かることはなかつたが、後ろの山が崩れることが

□ 鴻野伸夫さんの「水郷の想い出」写真展が三十日まで、常陽銀行(江戸川)。

稻刈り機が普及しても長雨や台風で水がたまる  
と、今まで刈るより仕方がなかつた。また、刈り  
入れ時に強い雨や台風が来るると稲は倒伏し、この  
時機は使えなかつた。手刈り機の場合、なまじ  
ぬかるんではいるなり、たっぷり水があつた方が  
いい。稻や蕙先が尼で汚れないからだ。